



酒井だより

(金屋地区集落支援員)

2月の活動

～情報収集活動「高根集落の取組」～

2月9日(金)

集落支援員として、情報収集すべく荒川支所の職員と共に高根集落(朝日地区)について聞き取りをしてきました。高根は160世帯で約590人が暮らしており、村上市内でも有数の豪雪地帯です。

平成12年に高根小学校が閉校となり、集落内にも少子高齢化が見えて地域に危機感が生まれてきたそうです。

このままでは集落の存続も難しいので何とかしようと、集落の住民有志が高根フロンティアクラブを結成しました。

元々あった高根公民館などの団体とも協力し、集落外との交流や受け入れを目指し活動してきました。縁あって関東の大学生との交流があり、今は8代目の大学生が来て、田舎生活を体験しています。さらに、高根フロンティアクラブは、地域の宝探しとして、老人会、青年会、消防団、各クラブに声かけして、「課題の整理」や「未来のデザイン」をみんなで作り上げてきました。その中には、空き家をリフォームしてゲストハウスにし、若い世代が企画して居酒屋イベントを実施するなど「地域課題を楽しめる活動へ転換する」ことを大切にしているそうです。また、出来る時にできる人が活動することで負担感を少なくしているそうです。

人口減少など時代の変化により集落の状況も変化しています。「変化に対応してこそ伝統を守るといふこと」という言葉は、とても重みがありました。

荒川地域で活用できそうなこと

金屋地域の各集落も地域活動が活発に行われているところもあります。一方で少子高齢化は、年々深刻化しています。

集落活動を「今までと同じ」ように維持することはいずれ難しくなることも予想されます。

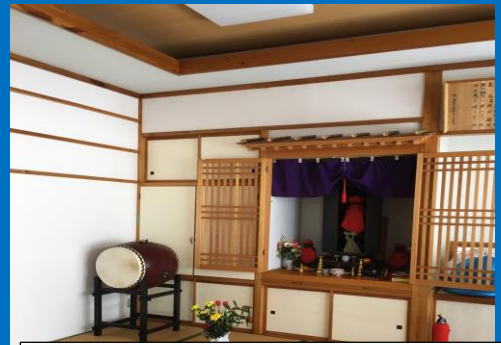
集落支援員として行政と力を合わせ、集落としっかり向き合い、寄り添いながら、「これからの各集落のあり方」を一緒に考え、歩んでいきたいと感じました。

「ここの集落は、冬の2か月は除雪もままならず大変だども、景色はいいし、人のつながりも最高でいいところ。」金屋地区のある集落の方の笑顔の言葉です。

集落の人の幸せって、特別なことではないのかも知れないと感じました。

～お茶の間(中野)におじゃまして～

2月22日：中野集落開発センター



集落センターの中にお地蔵様！常に集落の人たちと一緒に、ほほ笑んでいるようでした。

お茶の間に向かうが、今年の大雪は半端じゃない。いろんな道路が通行止めで、Uターンしているうちにどこを走っているのかわからなくなり、やっと到着。約束時間にだいぶ遅れてお茶の間に参加。「迷子になってると心配したよ」と笑顔で迎えて頂いた。

集落は世帯数12戸とこじんまりしているが、その分、区長中心にまとまりが良い。行事があれば、若者も子供も参加して楽しむ。用水に落ちていたスノーダンプをめぐり「あの家の？」「いや、あの家だろ」仲の良さが伝わってきて温かい気持ちになった。「将来買い物に困ったらどうする」なんて話題も、「乗合タクシーに乗ってみんなで買い物に行けばいいよ」と明るく笑っていた。

～金屋小学校 六年生を送る会～

2月23日：金屋小学校

金屋小学校の六年生を送る会があり、作成していた鮭のぼり(鯉のぼりの荒川版)の色付けに参加した。長さ7mのテント生地いっぱいに鮭が描かれ、そこに色とりどりのペンキで、スタンプを押すかたちで色付けをした。担当したのは、6年生とその保護者の皆さん、そして地域の皆さん。この鮭は、ドーム型の骨組みにかぶせて、子供達を通り抜けできるトンネルドームになるそう。子供達のアイデアが形になり、卒業式にお披露目です。

★酒井のひとこと★

よく降りましたね～雪雪雪。こんなに雪が降ると除雪は大問題でしたね。

集落で助け合って除雪して何とかしたが、さすがに腰が痛くなったというお父さん達、お疲れさまでした。2月のこの便りを読むころには、春めいて暖かい日もチラホラかな。

2月17日に村上市内のまちづくり協議会の「地域の自慢大会」があり、廃園を活用してコミュニティ施設に使っていると、まちづくりの拠点「あら、ほっ」の発表をしてみました。

「あら、ほっ」には、立派な桜の木が何本もありますから、開花するととても見事です。

お花見がてら、気軽にお寄りになりませんか？お弁当やお菓子の持ち込みOKです。美味しいコーヒーやハーブティーもあります。お待ちしております。

金屋地区集落支援員 酒井幸子

連絡先：つどい場あら、ほっ(旧荒島保育園)

電話 62-7144



担当事務局

荒川支所地域振興課 自治振興室

電話 62-3102